

第 62 回 日本透析医学会学術集会・総会

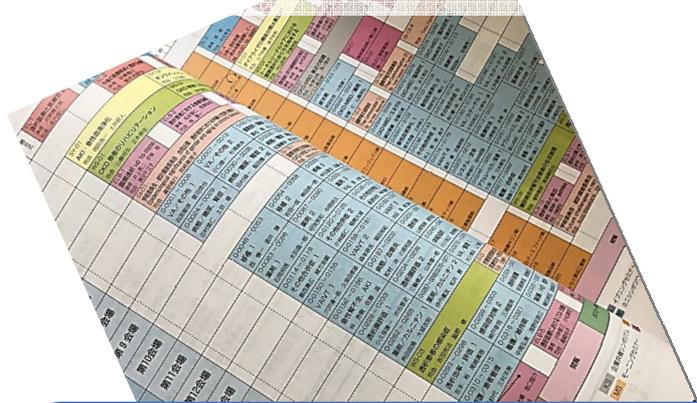
2017年6月16日～18日

於；パシフィコ横浜

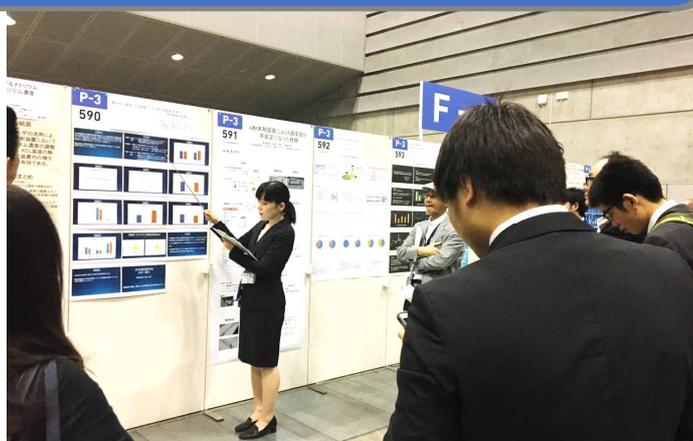
変革期にきた透析医療

—明るい未来を築くために—

日本透析医学会は学会員数 17,000 名を超える日本でも有数の大きな学会であり、この集会・総会は透析医療にかかわる医療関係者が約 20,000 名も一堂に会する学術集会として知られています。毎年3日間にわたり開催され規模としては最大のものであり、演題数は3,600 演題を超え、特別演題や、セミナー、シンポジウム、ワークショップなど、また他にも企業ブースが設けられ、メーカーの新しい製品の紹介なども行われています。



今年の会場はパシフィコ横浜。会場数は 20 を超え、広い会場の所々で案内ロボット Pepper 君が会場案内をしていました。近年「音楽フェス」などが人気ですが、仕組みが似ていて、会場ごとにタイムテーブルが組まれており、興味のある講演を聴き、空いた時間は企業ブースを見て回る、などのように個人個人が自由に動けるようになっています。

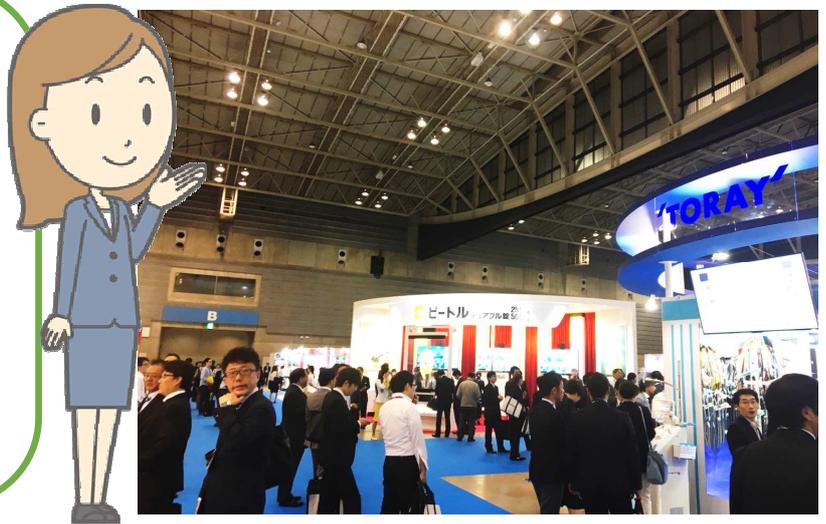


別会場の広い展示ホールでは発表の内容が提示されているポスターが、発表の時間まで自由に閲覧できます。発表とは瞬間は観覧者の距離が近く、大きな画面でスライドを使った発表とはまた違った緊張感があります。このポスター演題だけでさえ1日700 題ほどの演題数があり、この学術集会の大きさがわかっていただけるかと思えます。



広い展示ホールでは企業ブースが併設されています。華やかな企業ブースは150を超える企業が新しい製品の紹介や案内、サンプルの配布などを行っており、毎年大賑わいを見せています。

冷たい飲み物を配っていたりもするので、休憩がてら、観たい演題の合間などに立ち寄る事も多いです。興味のある話に夢中になるあまり時間を予定より多く使ってしまいがちにもなったりします。



冒頭に述べたように参加人数、演題数企業も多く業界としてもこれだけの大きい規模の集会在毎年開催されていますが透析を含め、医療業界はあまり楽観できる状況ではない現状があるのも確かです。来年は診療報酬・介護報酬改定が同時に行われます。

今回「変革期にきた透析医療－明るい未来を築くために－」というタイトルのように、明るい未来のためにもできることを頑張っていきたいと思いました。

みさと健和クリニック透析センター

Misatokenwa blood dialysis hemodialysis center